



海外の医療から日本の医療を考える

第4回：タイの病院

多摩大学 医療・介護ソリューション研究所 教授
一般社団法人 JA共済総合研究所 客員研究員
真野 俊樹

目次

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| 1. はじめに | 5. バムルンラート病院 |
| 2. 病院チェーンの基幹病院 | 6. ヤンヒー病院 |
| 3. バンコクホスピタル | 7. チュラロンコン大学医学部
附属病院とマヒドン病院 |
| 4. サミテベート病院 | |

1. はじめに

今回はタイの病院について眺めてみよう。通常、日本からの病院視察では、メディカルツーリズム（医療観光）を行っている病院の中でも、今回最初に述べる最高級の病院を持つ、高度医療のイメージを抱く人が多いと思われる。だが、前回に述べたように、医療の質を担保しようとしてはいるが、それでもタイの医療では格差が目立つ。

そこで今回は、JCI¹を取得しメディカルツーリズムを推進している病院と通常の国民が受診する病院を比較してみよう。

2. 病院チェーンの基幹病院

タイでは株式会社による病院経営が認められている。その中でも首都バンコクに本拠を置く Dusid medical group は、現在32病院を所有し、2015年までに50病院にするという目標を立てている。

このグループに属するサミテベート病院の外来では月に1万人の日本人が訪れる。その

うち5%ぐらいが他国からの日本人であり、訪れる日本人の6割は日本語の通訳を通して受診をしている。日本人患者は30歳から50歳代が大半で、ロングステイで来るような60歳代以上は5%くらいしかいない。最近、このグループはミャンマーにも病院を作ったため、ミャンマーからの患者が増えている。そのため、ミャンマー人用の専用カウンターを作った（写真1）。

（写真1）



1 Joint Commission Internationalの略

救急車はサミテベート病院専用の場合は距離にもよるが約1000パーツ²かかる、その他救急車には、無料の公営救急車、ボランティアの救急車がある。

この病院のベッド数は270病床、ICUは30病床、平均在院日数は3.2日である。病床占有率は70%が損益分岐点で、現在はそれ以上の占拠率にある。また、遺伝子検査も予防に取り入れているという。日本人の検診料は1人約2万円である。ICUに入院した場合は1日5万円から6万円請求される。

3. バンコクホスピタル

16階建てのバンコクホスピタルは、1972年に設立されたDusid medical groupの基幹病院である。株式会社としてタイの証券取引所に上場している。この病院では、バンコク国民の3%の富裕層と海外企業の駐在員や旅行者、安くて質の高い医療を受けるためにバンコクを訪れる患者をターゲットにしている。バンコク内での競争はもちろんのこと、海外でも顧客の獲得競争をしている。経営に関してはBSC³を導入したりISO⁴を取得して積極的に取り組んでいる。

バンコクホスピタルでは、従来からタイ及び近隣国駐在外国人対象の医療サービスを行ってきた。タイをアジアの健康リゾートの中心とする政府の政策にも呼応する形で、外国人対象のサービスを抜本的に拡充している。バンコク国際病院のほか、アメリカで世界的な心臓外科の権威として活躍していたタイ人を招いてバンコク心臓病院を開設するなど、施設・陣容の拡大を進めている。

外国人の医療ニーズは特に中東のイスラム教徒を中心に大幅に増加している。これはテロによりアメリカ入国が困難、或いはアメリカ滞在が困難になった中東のイスラム教徒が、タイに代替地として多数来訪し始めたことが大きく影響している。タイは宗教的に寛容であり、また、従来からイスラム教徒も3%程度いて、食・生活習慣面でも対応が容易である。この傾向は後述するバムルンラート病院の方が顕著であったが、この病院でも、1回あたりの医療にかかる費用が違うために、徐々に中東からの患者のウエイトが増えている。

また、日本人対応に関しては、日本留学医師がタイで最も多数揃い、日本人でタイの医師免許を習得した医師も勤務している。

4. サミテベート病院

この病院はM&Aによって現在、Dusid medical groupに所属している。元の病院グループとしては3病院であった。日本人が多く住んでいるエリアにあるために日本人対応が充実していることで知られる。

医師は450人、看護師は500人、医師のうち250名が常勤、残りの非常勤は大学から来ている。医師の確保のために場合によっては医師の引き抜きを行うことがある。医師は原則契約制である。契約制というのは病院に数%以上のコミッションを支払って、その病院の名前、この場合はサミテベート病院ということで、Dr Fee（診療報酬）を請求することができる仕組みである。このような仕組みであるので医師の給与は非常に幅がある。多い人は

2 1パーツ約3,150円（2014年1月14日レート）とすると、約3,150円

3 Balanced Scorecardの略：業績評価システムの一つ

4 International Organization for Standardizationの略：国際標準化機構

1億円の年収を得る場合もあるが、1,000万円以下の年収の医師もいる。医師は1年ごとの契約であり、医師への評価が厳しく、患者からの評判が悪かったりすれば解雇になる場合もある。なお、看護師の給与は安く月約4,500バーツ⁵が標準的である。

この病院では、日本製の医療機器も使われており、内視鏡はオリンパス、ベッドはパラマウントベッドに最近変更したという。経常利益率は2桁で、key performance indicator（重要業績評価指標）で経営している。利益には薬剤の値段が大きく貢献している。なお、薬剤の値段設定は同じ薬であっても自由である。つまり同じ名前の薬剤が病院によって値段が違うということになる。

ちなみに、タイは極端に交通渋滞がひどいため、バイクタクシーのある国であるから当然かもしれないが、バイクで医療従事者を患者宅や事故現場に連れて行くこともあるという。

5. バムルンラート病院

バムルンラート病院は、1996年に開設された256病床を有する総合病院である。この病院は、タイ航空を主要株主とする株式会社病院で、タイの株式市場に上場している。バンコク病院と並んでメディカルツーリズムの雄であるが、近年、病院の規模では、M&Aを繰り返すバンコク病院グループ、つまりDusid medical groupに大きく差をつけられた。今や、株の一部がDusid medical groupに保有されている。

特徴としては、各国語に対応した医療が行われ、英語、アラビア語、中国語、日本語などのサービスデスクを揃えている。但し、医

師は基本的に英米の医学部卒が大半で、日本留学医はほとんどいない。しかし、ここでも日本人でタイの医師免許を習得した医師も勤務している。

患者の中心はインドネシアなどの南アジアや東南アジアの富裕層、アラブであるといった点はバンコクホスピタルと同様である。海外からの患者は40万人を越えているが、日本人中心というわけではない。

日本から医療を受けにツアーを組んでくる、といった話も聞かれたが、実際に一般の医療を日本から受けに来る患者は少ない。

病院内には、豪華なロビーやマクドナルドやスターバックスといったファストフード、日本の居酒屋様のレストランまでである。食事制限が無い限り、病院内にある日本料理レストラン、マクドナルドやスターバックスからの注文も可能で、部屋までデリバリーしてくれる。まるで、ホテルのような病院である。ワールドクラスの医療ケア、親しみを込めた献身的なサービス、そして優しさを目標としている株式会社病院である。タイの中で治療水準、サービス水準の高さで定評のある病院であり、施設面でもバンコク病院同様に高級ホテル並みの病室が揃っている。

6. ヤンヒー病院

ここで、これまでメディカルツーリズムで有名になっていない病院を紹介しよう。ヤンヒー病院（次頁写真2）はバンコクの中心を流れるチャオプラヤー川を越えた少し静かなエリアにある。バンコク病院やサミテベート病院のように、タイの超富裕層をターゲットにした病院ではない。そのエリアにおける総合病院であるが、美容整形においてはアジア

5 1バーツ約3.15円（2014年1月14日レート）とすると、約141,750円

有数の病院という変わった位置づけの病院である。また最近ではタイでも問題になってきている高齢化対応ということで長期入院の患者も受け入れている（写真3）。

写真にあるように長期入院の患者への対応は昔の日本の病院のようである。高齢化が迫っているタイにおいて、高齢者対策が現状ではあまりできていないことを想像させる。

国際化を踏まえ、英語対応可能という名札を付けたりしている点は、他の株式会社病院と同様に外国人に対しての配慮がみられる。

一方、美容整形においてはバンコク1位、いやアジアで1位であるという自負がある病院である。タイでは性転換手術が有名であるが、この病院でも日本からの芸能人の患者を含めて多くの手術が行われている。中東などからの患者も多い。また、腸洗浄（写真4）の機器も導入されており、ダイエットなどの積極的に取り組んでいる。

美容整形と並ぶこの病院の特徴には、医療従事者の服装がある。派手なシャツ、ミニスカートは無論のこと、ヒールも2センチ以上のものを着用することが義務づけられている。なお、この病院はJCI取得病院であるので医療安全への配慮は行き届いているはずである。

圧巻が、院内を所狭しと走り回るローラースケートの女性である（次頁写真5）。これは、院内でのカルテなどの搬送を行っているということであるが、院内で走ることを制限されている日本の病院から見れば、驚きではないであろうか。

（写真2）



（写真3）



（写真4）



(写真5)



(写真6)



7. チュラロンコン大学医学部附属病院とマヒドン病院

通常国民が受診する最高レベルの病院が大学病院である。大学病院を持つチュラロンコン大学は、1917年に国王によって建てられたタイで最初の大学であり、タイで一番優秀な大学である。日本の東京医科歯科大学病院と提携している。付属病院であるチュラロンコン大学医学部附属病院も医療レベルには定評があり、マヒドン大学とともにタイの医療の双峰を成す病院である。しかし、筆者が見る限り、これらの病院は庶民でござたがえし、アメニティが高い病院とはいえなかった（写真6）。個室もあるが、ほとんどが大部屋でクーラーはない。

おそらく医療レベルは高いが、しかしアメニティが低い。これが上述した株式会社の病院との大きな差であろう。

では、なぜ、医療レベルの差がないか少なくとも、アメニティの差といえるのか。それは少なくとも医師に関しては、バムルンラート病院や、バンコクホスピタルには、この国では、医師の兼業が厳密に禁止されていないのでこのチュラロンコンやマヒドンなどの大学

病院の医師が診察や手術に行くからである。ただし、日中の業務時間に抜け出すのは限界があるようで、土日とか早朝、深夜の回診が多い、という話であった。医師としても、安い国立大学病院の給与を兼業でカバーしている様子である。また看護師のレベルも、株式会社病院とチュラロンコンなどの大学病院は遜色ないようであった。